

Vol.4「レポート執筆における生成系AI利用の注意点」

1. 生成系AIとは

ChatGPT、Gemini、Copilotなど、コンテンツを生成できるAIのこと。自然な対話、プロンプト（指示）に合わせたテキスト（原稿・要約文など）や画像の生成などが可能。

これからの社会においては、これらの生成系AIを「使いこなす」力が必要
一方で…

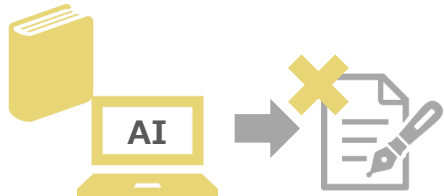
授業課題における生成AI利用は科目によって可否が異なるため、

担当教員への確認は必須

また、レポート執筆などにおける不適切な利用は自分の学習・成長の機会を奪うだけでなく、**評価を著しく下げてしまう可能性**がある！

2. 不適切な利用が引き起こす問題

① 剽窃



・生成系AIの生成物を含む他者の著作物を、断りなく自分のレポートなどに流用することは「**剽窃（盗作）**」という**不正行為**に当たる

・また、AIがWeb上のデータを学習した結果、既存の著作物と類似した文章や画像が生成される可能性があり、それを利用してしまうと**著作権侵害**に該当する恐れあり

→Vol.3「引用の基本」を参照

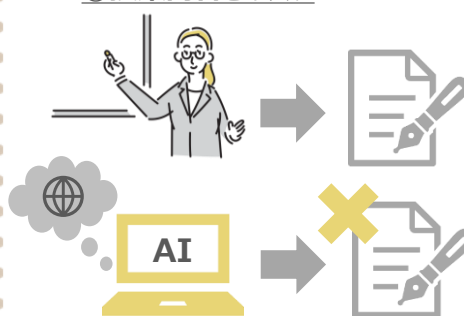
② 文献や事実の捏造



・生成系AIはありもしない文献や記述を根拠として提示したり、事実とは異なる内容をさも事実らしく回答したりと、誤った情報を生成することがある

・生成系AIの生成物を鵜呑みにして無批判にレポートに利用すると、意図せず「**捏造**」という**不正行為**に手を染めてしまう可能性がある

③ 授業内容とのズレ



・課題としてのレポートは、「授業内容を踏まえて」かつ「条件を守って」執筆することが求められるが、AIが生成できるのは、授業内容ではなくweb上のデータに基づいた「**一般論的な**」「**それっぽい**」文章に過ぎない

・AIに丸投げすると、授業内容や条件には合致しないレポートができあがり、AIの不正利用が発覚して**信用が下がる、評価が下がる**…などの問題が生じる



このように生成系AIの回答を鵜呑みにしたり、レポート執筆を丸投げしたりするのは非常に危険！
振り回されずに「使いこなす」ためには適切な使い方を考えなければならない



▲桃山学院大学
生成AIの利用ガイドライン

3. 賢く「使いこなす」ために

その①



ベースは自分で考える

◇ 教員が強調したポイントなど、具体的な授業内容を理解しているのは授業を受けていた自分だけ！

◇ **考察・ベースとなる文章執筆**は授業資料やとったノートを振り返りながら、**必ず自分で**行うこと

その②



考えの整理や校正に使おう

◇ 考えがまとまらないとき、何も思いつかないときは、AIとの対話によって整理！

◇ 誤字脱字や文法の誤りを指摘してもらうなど、**文章のブラッシュアップ**に使おう
→「どのような文体で整えたいのか」、「何をチェックしてほしいのか」など具体的にプロンプトを書く必要あり

その③



ファクトチェックや手直しを忘れずに

◇ AIは「参考にする」程度にとどめ、**良し悪しや正誤を自分で判断**すること

◇ 特にAIが提示した資料や情報は、必ず実物や情報源を確かめ、記述の所在までチェックし、**自分の責任で引用**しよう

桃山学院大学 学習支援センター

【HP】

【MAPS Instagram】

場 所：1号館2階（地上階）

開 室：9：10～18：10

（学期中は授業日のみ開室）

MAIL：ascentre@andrew.ac.jp



MOMOYAMA MAPS